



横山成教
渡辺義雄

擬律必携

坤

7 13
6549
2



門 7 13
6549
卷 2



擬律必携卷二

名例律下 新律綱領

依田董閱

渡横山成
邊義雄教



犯罪存留養親

凡徒流ヲ犯シ、發配スベキニ祖父母、父母、年七十以上、及ビ廢篤疾ニシテ、家ニ侍養ノ子孫ナキ者ハ、所司、事實ヲ推問シ、徒流並ニ杖一百實決シテ餘罪ヲ收贖シ、存留シテ親ヲ養ハシム、其死罪ヲ犯シ若クハ再ビ徒流ヲ犯ス者ハ、並ニ本刑ヲ加ヘ、收贖スルヲ聽サズ

疑律必携 上卷 中

早稻田大學圖書館
昭27.3.1
藏書

第三十五條 凡犯罪存留養親者、徒流並ニ、杖一
百實決シテ、餘罪ヲ收贖スル律ヲ改メ、懲役一
年以上ニ諛ル者ハ、ボクシ棒鎖三日ニ科シテ、餘罪ヲ
收贖シ、其百日以下ニ諛ル者ハ、ゼン全罪ヲ收贖ス
ルヲ聽ス、

滋賀縣伺 六年七月十七日

犯罪存留養親條例、第三十五條、婦女ノ儀不
相見、懲役一年以上、實斷ノ罪ト雖モ、全罪ヲ
收贖シ可然哉、

指令

伺之通

滋賀縣伺 六年九月四日

存留養親條例中、懲役一年以上ニ諛ル者云
々トアリ、律ニハ其死罪ヲ犯シ云々、并ニ本
刑ヲ加ヘトアリ、然レバ終身懲役モ、存留養
親ヲ聽シ候哉、又ハ律ニ再ビ徒流ヲ犯ス云
々、御改正ナキヲ以テ考フレハ、懲役終身ハ、
死刑ノ一部ニ準ズレバ、死罪ト同久、留養ヲ
准サズ、本刑ヲ加ヘ候哉

指令

懲役終身者ト雖モ、人命放火等ヲ除クノ外
 改定律例第三十五條ニ照シ、留養ヲ准ス法
 懲役終身收贖金三十五圓ヨリ、捧鎖三日、原
 杖一百ヲ金數ニ折シテ扣除シ、剩ル金數ヲ
 收贖ス
 三瀨縣伺 月六年十二
 懲役十年以下ノ者、已ニ發配スル後、祖父母
 父母病氣ニテ、家ニ侍養ノ者ナク、父祖親屬
 ノ侍養スルコトヲ願フコト、切ナル者ハ宿ヘ下
 ゲ、親ヲ養ハシメ可然哉

指令

改定律例第三十五條、第三十六條ニ照シ、留
 養スルコトヲ聽ス

山口縣伺 月九年十二

犯罪存留養親ノ條ニ依リ、擬斷ス可キ者、無
 カニシテ贖フコト能ハサル時ハ、改定律例第
 三十一條ニ依リ可處斷哉

指令

本文ノ如キハ改定律例第三十五條ニ依リ
 科斷シ、餘罪ハ故免シテ、養親セシム可シ

滋賀縣伺 十七年二月

今茲ニ賭博三犯ノ者アリ、其母年七十以上ニシテ家ニ侍養ノ子孫ナシ、然レドモ同村内ニ、弟ノ別籍異居スル者アリ、右ハ侍養ノ子孫アル者ト見做シ、留養ヲ聽サズ可然哉、但本文、弟己ニ他家ヲ相續致ス者ナレバ、侍養ノ子孫ナシトシテ留養ヲ聽シ可然哉

指令

弟アリト雖モ、別籍異變ニ係ル者ハ侍養子

孫ト爲ス可カラス、本文ノ如キハ、留養ヲ聽

ス、京都裁判所伺 十七年二月

懲役終身ニ決配ノ者、限内老疾スト雖モ、改正懲役限内老疾例圖ニ、收贖ノ例之レ無ク候ニ付、既ニ決配スル者ハ、贖ヲ聽サレザル儀ニ候哉云々、先般相伺候處、懲役終身ニ發遣シ老疾スル者、人命放火等ヲ除ノ外、其羸弊ニシテ、役ニ堪ザルノ證、確實ナルヲ得テ、收贖シテ放免ヲ聽ス云々、其存留養親者ハ、

第三十五條ニ照シ、棒鎖ニ科シ、余罪ヲ收贖
スル亦此法ニ依ルト、御指令之有リ、然ルニ
新律綱領、犯罪存留養親條ニ、其死罪ヲ犯シ
若クハ再々、徒流ヲ犯ス者ハ云々、收贖スル
コトヲ聽サズトアリ、改定律例ニモ、懲役終身
五、死刑ノ一部ニ准ズトアルニ依リ、其懲役
終身ヲ犯ス者、若クハ存留スルコトヲ得ザル
カト疑ヲ生シ候處、司法省日誌第七十一號
又查スルニ、山口縣伺第八條、老親アツテ別
ニ侍養ノ子孫大レト雖モ、懲役終身ヲ犯ス

者ハ、存留スルコトヲ得ザルヤニハ、御指揮伺
ノ通トアリ

其裁判所指令ノ通心得ベシ

兵庫裁判所伺 七年三月廿日

懲役限内、老疾者ノ收贖例ハ、十年ニ止リ、終
身者ノ儀ハ、不相見、未ダ御確定無シ之儀ニ候
哉、將々懲役終身ハ、死刑ノ一部ニ屬スルヲ
以テ、老疾ト雖モ、收贖ヲ聽ササル儀ニ候哉、
一等赦前、既ニ再犯ノ刑ニ處セラレ、赦後三

犯スル時ハ、五十圓上下ヲ分チ、其本罪ヲ擬
シ、仍ホ一等ヲ減ジ可然哉、赦後再犯ナルモ、
同様減等可然哉

指令

懲役終身ニ發遣シ、老疾スル者、人命放火等
ヲ除ク外、其羸弊ニシテ役ニ堪ヘザルノ證、
確實ナルヲ待テ、收贖シテ放免ヲ聽ス、法懲
役終身、收贖金、三十五圓ヨリ、己ニ役スル日
數年數ヲ、金數ニ折シテ扣除シ、剩ル金數ヲ
收贖セシム、其存留養親者ハ、第三十五條ニ

照シテ、棒鎖ニ科シ、餘罪ハ收贖スル、亦此法
ニ依ル

新潟縣伺 十七年三月
十二日

婦女姦盜等ノ罪ヲ犯シ、懲役一年以上ニ減
リ、祖父母、父母、年七十以上、及ビ廢篤疾ニシ
テ、家ニ侍養ノ子孫ナキ者ハ、全罪ヲ收贖ス
可キ哉

但婦女姦罪ヲ除クノ外、懲役一年以上實
決ス可キ罪ヲ犯シ、夫年七十以上、及ビ廢
篤疾ニシテ、家ニ侍養ナキ者ハ、本文同様

全罪ヲ收贖スベキ哉

指令

本文ノ如キ婦女ハ律例第三十五條ノ捧鎖
ニ科シ難シ、仍テ伺之通處斷スベシ

但書本條ニ同シ

濱田縣伺 七年七月

懲役限内、老疾、犯罪存留養親等ノ收贖金、無力
ニシテ、其全數ヲ納ムルヲ能ハザルヲ以テ、
其幾分ヲ納メ、殘數ノ免捨ヲ願出、又ハ全部
ノ年賦納ニ願出候分有之、右ハ如何處分可

然哉

指令

懲役限内、老疾收贖ヲ聽ス者無力ニシテ、贖
金延期限ヲ過テ、仍ホ贖フ能ハザレバ、故免
ス、犯罪存留養親者、無力ナルモ、延期例ヲ用
ヒズ、直ニ放免ス

高知縣伺 七年八月

懲役人、門田米吉、父兼藏、年七十以上、殊ニ
癡ニ罹リ、待養スベキ妻、七十歳、尚幼少者有
之、難澁顯然ノ處、新曆ヲ以算セバ、妻七十年

未滿ニ候得共、律上七十年以上云々ノ條、無
之ニ付父母共老疾ヲ以論シ、米吉放免、存留
養親申付可然哉

指令

七十未滿ノ妻猶在ルヲ以テ、米吉ノ存養ヲ
准サズ、但シ老母七十未滿ト雖モ、多病羸
衰、老父ヲ養フニ堪ザル、老疾ニ係ル片ハ更
ニ伺出可シ

山口縣伺 七年五月

犯罪存留養親律、凡徒流ヲ犯シ發配ス可キ

云々、再ビ徒流ヲ犯ス者ハ、并ニ本刑ヲ加へ、
收贖スルコトヲ聽サズト有之、再ビ懲役百日
以下ノ罪ヲ犯ス者、固リ收贖ニ可處哉

指令

本文ノ如キハ、改定律例第五條ニ依リ、棒鎖
ニ處ス

佐賀裁判所伺 七年九月四日

元佐賀縣士族、鍋島克一儀、逆徒ニ與シ、大隊
長トナリ、隊下ヲ指揮シ、官兵ニ批敵スル科
ニ依リ、本年四月十三日、除族ノ上、懲役十年

ニ處シ置カレ處、克一、家族男女七人ノ内、父夏雲、七十一年ニ相成、母ハ六十四年肺病篤疾ニテ、姙モ、瘞性病ノ上、左臂、左脚、稍不遂、全癒ノ期無之、長男ハ九年、二男ハ七年、三女ハ四年、何レモ、幼稚ニ有之、妻儀侍養當然ノ處、舊眼疾加ルニ、全軀疲勞致シ居リ、雙親ヘノ奉養行届カザルニ付、克一ニ侍養差許サレ度段、親族田中政維ヨリ、切願ニ及ビ、檢官、檢視醫負診書共、別紙ノ通ニテ、憫然ノ事ニ付、改定律例第三十六條、凡懲役一年以上云々、

餘罪ヲ收贖シ、放還スルヲ聽スト云テ、以處分可然哉ノ處、其犯罪タル常典ノ外ニ出ル者ニ付、如何可處斷哉、但侍養差免サル儀ニ候ハ、以後、同罪ノ者、同様ノ願有之節ハ、檢査ノ上、直ニ處分致シ度候也

指令

留養ヲ聽ス可シ

第三十六條 凡懲役一年以上ヲ犯シ、已ニ實斷シテ、役百日ヲ過ギ、祖父母、父母、老疾シテ、家ニ侍養ノ子孫ナク、父祖、親屬ノ侍養スルヲ願

フ、切ナル者ハ、餘罪ヲ取贖シ、放還スルヲ
聽ス

島根縣伺 六年十月五日

茲ニ、懲役五年ノ囚アリ、其父既ニ七十有餘
其母未ダ七十ニ滿タズ、而シテ、其妻通風ニ
患シ、十歳以下ノ子女二人アリ、加之、其母七
十未滿ト雖モ、常ニ病牀ニ起臥ス、斯ク家ニ
侍養ノ子孫ナケレバ、第三十五條ニ依リ、處
置可然哉

指令

其妻、病ニ罹リ、不治ノ症ニシテ、全快ノ日モ
期シ難キ、且子孫アリト雖モ、幼少ニシテ、侍
養ニ堪ヘズ、父祖、親屬ノ、侍養スルヲ願フ、
切ナル者ハ、改定律例、第三十六條ニ依テ、處
分スベシ

第三十七條 凡華士族、禁錮、一年以上ヲ犯シ、祖
父母、父母、老疾シテ、家ニ侍養ノ子孫ナキ者ハ、
侍養スルヲ聽シ、已ムヲ得ザルノ事、故アリ
ト雖モ、官ニ告ルニ非レバ、外出スルヲ聽サズ
第三十八條 凡侍養子孫ト稱スルハ、年十六以

上、成丁ノ者ヲ謂フ若シ家ニ丁男ナシト雖モ、
妻若クハ女、年十六以上ノ者アレバ、留養スル
コトヲ聽サズ

婦女犯罪 新律綱領

凡婦女死罪、不孝、姦、盜、人命、放火ノ徒罪以上ヲ犯
ス者ハ、各律ニ依テ斷決シ、笞杖ニ該ル者ハ、日數
ニ折シ、笞杖一十毎トニ十日ニ折シテ、禁獄ニ換
フ
其餘ノ罪ハ、並ニ法ニ依テ收贖スルヲ聽ス、

婦女犯罪條例 改定律例

第三十九條 凡婦女、不孝、姦、盜、人命、放火ノ徒罪

以上ヲ犯ス者ハ、各律ニ依テ、斷決シ、笞杖ニ該
ル者ハ、日數ニ折シテ、禁獄スル律ヲ改メ、並ニ
懲役ニ服ス、其餘ノ罪、收贖ス可キ者、無力ニシ
テ、贖フト能ハザル者、懲役百日以下ハ、折半シ、
一年以上ハ、五等ヲ減シテ、並ニ懲役ニ服ス、

滋賀縣伺 六年七月 十七日

婦女、犯罪條例第三十九條、不孝、姦、盜、人命ト
アリ、不孝トハ何々ヲ指シ候哉

不孝ノ罪ハ、毆罵、干名犯義、子孫違教等直ニ、
祖父母、父母ニ對スルハ罪、一々杖擧ス可ラ
ズ

相川縣伺 七年五月二十七日

改定律例第三十九條、凡婦女、不孝、姦盜、人命、
放火ノ徒罪以上者ハ各律ニ依テ斷
決シ、笞杖ニ詎ル者ハ日數ニ折シテ禁獄ス
ル律ヲ改メ並ニ懲役ニ服ス云々ト有之、當
縣下、相川、五郎左衛門町、若林喜太郎妻トク
放火致スベキノ張札致シタル科、不應爲律

ニ擬シ、懲役三十日ノ所、役場未ダ設立相成
ラザルニ付、六年六月、第二百六號、御布告ニ
基キ禁獄ニ實決イタス所、右ハ婦女犯罪律
ニ依リ實斷スル者ヲ除ク外、不應爲等ニ擬
スル者實斷ノ限ニ非ズト、今般御指令コレ
アリ、然レバ、不孝、姦盜、人命、放火モ、
出デ準據スベキ者ト雖モ、各律ニ依ラズ、不
應爲等ヲ以テ擬スルモノ、無論、收贖ヲ準ス
可キ儀ト、奉存候、然處、御省日誌、四十二號、豐
岡縣伺、但馬國、七味郡、長須村、農、榮右衛門女、マ

ム刑名御指令ニ私怒ヲ懷挾シ人ノ宅舎ヲ
焼シトシテ未ダ行ハザル者不應為條不應
為重キニ問ヒ懲役七十日ト有之右差別辨
知致シ兼候間向後如何相心得可申哉

指令

同ク不應為ノ罪ヲ科スルモ事情ニ依リ實
斷収贖ノ課アリ伺面トクノ如キハ放火致
ス可キノ張札ノミニテ未ダ火具ヲ用ユル
ニ非ス故ニ不應為ノ収贖ニ處ス豊岡縣伺
面同論ニ非ズ

第四十條 凡華士族ノ婦女不孝姦盜人命放火

ノ罪ヲ犯シ懲役百日以下ニ諛ル者ハ日數ニ
照シテ鎖銅ニ換ヘ一年以上ハ並ニ本刑ヲ加
フ

徒流人又犯罪新律綱領

凡先キニ罪ヲ犯シ已ニ發覺シ尚ホ未ダ論決ヲ
經ズシテ又別罪ヲ犯ス者ハ先後ニ罪ノ重キ者
ニ從テ之ヲ科ス若シ徒已ニ役シ流已ニ配シテ
又別罪ヲ犯ス者ハ律ニ依リ再ビ後犯ノ罪ヲ科
ス其重子テ流ヲ犯ス者ハ三流並ニ拘役四年若

シ徒ヲ犯ス者ハ、後犯ノ徒限ニ依テ役スルモ、亦四年ニ過ルコトヲ得ズ、其杖罪以下ハ、各數ニ依テ之ヲ科ス、

懲役人又犯罪條例 改定律例 原徒流人又犯罪律

第四十一條 凡懲役百日以下ノ囚、役限内ニ在リ、又百日以下ノ罪ヲ犯ス者ハ、前犯ノ日數ニ通算シテ、之ヲ科ス、若シ後犯、一年以上ニ該ル者ハ、新ニ後犯ノ罪ヲ全科ス、

第四十二條 凡懲役一年以上ノ囚、役限内ニ在リ、又罪ヲ犯ス者ハ、後犯ノ日數ヲ加役スト雖

モ、重子テ、一年以上ノ罪ヲ犯ス者ハ、己ニ役過スル日數ヲ通算シテ、前後四年ニ過ルコトヲ得ズ、若シ五年以上ノ罪ヲ犯ス者ハ、己ニ役過スル日數ヲ問ハズ、新ニ後犯ノ罪ヲ全科ス、

第四十三條 凡懲役五年以上ノ囚、重子テ五年以上ノ罪ヲ犯ス者ハ、並ニ拘役四年ヲ加テ、若シ三年以下ノ罪ヲ犯ス者ハ、後犯ノ年限ヲ折半シテ、加役シ、百日以下ノ罪ヲ犯ス者モ、亦日數ニ照シテ、加役ス、

第四十四條 凡懲役限内、重子テ罪ヲ犯ス者ハ、

後犯推問曠役ノ日數ヲ以テ原役限内ニ算入
スルヲ得ズ、若シ推問ヲ經テ、無罪ニ歸スル
者ハ、仍ホ限内ニ算入ス
檄木裁判所伺 二十三年十二月
人民ヨリ懲役入ニ係リ、金銀貸借等ノ訟ニ
依リ、民法裁判上ヨリ喚問スルニ右曠役ノ
日數ハ、懲役人犯罪條例、第四十四條ノ例ニ
依リ、曲ナルハ、曠役ノ日數ヲ原犯役限内
ニ算入セズ、直ナル時ハ算入致シ可申哉、又
ハ民法裁判上ノ儀ニ付、都テ算入セザル儀

候哉

指令

直ナル時ハ曠役ノ日數、役限内ニ算入スベ
シ、曲ナル片ハ算入ス可カラス
老小廢疾收贖 新律綱領

凡年七十以上、十五以下、及ヒ廢疾者、死罪ヲ除ク
外、流罪以下ノ犯ス者ハ、收贖ス
八十以上、十歳以下、及ヒ篤疾者、入ヲ殺シ、死罪ニ
諛ル者ハ、議擬奏聞シテ、上裁ヲ請フ、若シ盜罪、及
ヒ人ヲ傷スル者モ、亦收贖スルヲ準ス、其餘ノ

罪ハ皆論ズルヲ勿レ
九十以上、七歳以下ハ、死罪ヲ犯スト雖モ、刑ヲ加
ヘズ、若シ教令スル者アレバ、其教令者ヲ罪ニ坐
シ、贖ノ償フ可キ者アレバ、其得ルモノヲシテ償
ハシム

老小廢疾收贖條例 改定律例

第四十五條 凡人ノ一目ヲ瞎スルハ、人ヲ廢疾
ニ致ス律ニ依ルト雖モ、一目ノ人、罪ヲ犯セバ
廢疾ヲ以テ、收贖スルヲ得ズ、人ノ兩目ヲ瞎
スルハ、人ヲ篤疾ニ致ス律ニ依ルト雖モ、盲人、

罪ヲ犯セバ、懲役ハ收贖シテ、死罪ハ、收贖スル
ヲ聽サズ、

第四十六條 凡盲人、及ビ廢疾者、姦盜ノ罪ヲ犯
ス者ハ、律例ニ照シテ收贖スト雖モ、其強盜強
姦ヲ犯ス者ハ、實斷シテ收贖スルヲ聽サズ

第四十七條 凡老小、及ビ廢疾者、官ニ在リ、罪ヲ
犯スニ、公罪ハ官吏贖罪罰俸例圖ニ依リ、私罪
ハ官吏犯私罪律例ニ依リ、其破廉耻甚キニ係
ル者、懲役百日以下ハ、除族ニ止メ、一年以上ハ、
仍ホ律ニ依リ收贖セシム、

第四十八條 凡老小及ヒ廢疾者、懲役終身以下
 フル犯ス者、例ニ照シテ收贖スルノ後、再ヒ罪ヲ
 犯ス者ハ、仍ホ例ニ照シテ、收贖スルヲ聽ス、
 若シ盜罪、賭博等、加等ス可キ、再犯ニ係ル者ハ、
 但加等ノ罪ヲ宥メ、本罪ヲ實斷シテ再ヒ收贖
 スルヲ聽サズ、三犯以上ハ、凡人再犯以上例
 ニ照シテ加等ス、
 小田縣伺 六年十一月
 年十五以下ニテ盜罪ヲ犯シ、收贖ヲ聽シ、十
 五年以上ニ成リ、又同罪ヲ犯セハ再犯ヲ以

テ論ジ可然哉、若クハ加等ヲ宥メ本罪ノミ
 ラ科ス可キ哉

指令

改定律例四十八條ニ明文アリ

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

京都裁判所 同 六年十一月十七日

改定律例第四十八條、凡老小、癡疾者懲役終身以下ヲ犯ス者、例ニ照シテ収贖スル云々、又同収贖々罪例圖ニモ、懲役終身収贖金三十五圓ノ例、相見ヘ候處、改正懲役限内老小癡疾収贖例圖ニハ、懲役終身収贖ノ例無之、右第四十八條ヲ以テ、類推スル并ハ、則収贖ヲ聽シ、贖金三十五圓ヨリ、役過大日數ヲ減除ス可キ儀ト存候ヘ尺、右圖ニ相見ヘザルニ付、既ニ決配スル者ハ、贖ヲ聽サレザル儀

二 候哉 二 大浦ノハ昔ハ銀ノ趣セシヤハ
 指令 指令 指令 指令 指令 指令 指令 指令 指令 指令
 凡懲役終身ニ發遣シ、老疾スル者、人命、放火、
 等ヲ除ク外、其羸弊シテ役ニ堪ヘザルハ証、
 確實ナルヲ待テ收贖シテ放免ス、聽ク、法懲、
 役終身、收贖金三十五圓ヨリ已ニ役スル目、
 數年數ヲ金數ニ折シテ扣除シ、剩ル金數ヲ
 收贖セシム、其存留養親者ハ第三十五條ニ
 照シテ棒鎖ニ科シ、余罪ヲ收贖スル亦此法
 ニ依ル

筑摩縣伺 七年三月 三日

凡律例ニ、年七十年以上、十五年以下、及ヒ癡
 疾者ハ死罪ヲ除外、懲役終身以下ヲ犯ス者
 ハ收贖ニ處スル法典アリ、然ルニ右ハ男夫
 トナク婦女トナク悉ク之ニ照依シ、擬議論定
 スルハ勿論ナリト雖モ男夫ハ常律婦女ヨ
 リ重ク婦女ハ、常律不孝、姦盜、人命、放火ヲ除
 外、男夫ヨリ輕シ、特、七十年以上、十五年以下
 ニ於ルヤ、其罪ヲ犯ス、男女同ク論スルハ、權
 衡如何ニ可有之哉、過日、婦女本籍ヲ逃亡シ

テ、二年以外復歸及ヒ自首スル者男女ノ所
分不平ナルヲ以テ相伺候處、呵責トノ御指
令モ有之、旁前頭ノ如キモ迷疑相生シ候ニ
付相伺候也

指令

婦女罪ヲ犯スニ、不孝、姦、盜、等情、状大ニ悪ム
可キ者ハ、實斷ニ處スルノ外、其他ノ犯罪ハ
総テ收贖ヲ聽ス、而シテ老小癡疾ニ係ルト
雖、氏、仍ホ尋常ノ收贖例ニ依リ、別ニ輕減ヲ
爲スヲ用ヒズ、壯齡ノ時之ヲ遇スル寛容ナ

ルノ例ニ依テ、老小癡疾ノ律、婦女ノ爲ニ更
ニ輕科ヲ設ルヲ得ズ、然レ、氏、其實斷ス可キ
ノ罪モ老小癡疾ニ係ル時ハ、收贖ヲ聽ス、則
婦女犯罪上、老壯ニ由テ、自ラ區別アリ、老小
癡疾ノ婦女罪ヲ犯セハ、改定律例、第四十八
條ニ依テ處分ス可シ

堺縣伺 十七年四月十四日

窃盜初犯、再犯ハ、身體完全ニシテ、實斷スル
ニ、其再犯ノ懲役限内、癡疾ニ罹リ、收贖スル

後又窃盗ヲ犯シタル者ハ、改定律例第四十
八條ニ照シテ、三犯ナレバ、凡人再犯ノ例ニ
擬シ、處断可致哉、將タ源罪ニ次ノ實断ヲ經
テ、猶ホ省悟セサル者、本條トモ意味異レハ
更ニ御酌議モ有之事ニ候哉、罪人停置奉伺
候也

指令

改定律例第四十八條ニ依テ處分ス可シ

白川縣伺 七年五月 日

改定律例第四十八條、凡老小及ヒ癡疾者懲
役終身以下ヲ犯ス者、例ニ照シテ、叔贖スル
ノ後、再ビ罪ヲ犯ス者ハ、仍ホ例ニ照シ、叔贖
スルヲ聽ス、若シ、盜罪、賭博等、加等スベキ
再犯ニ係ル者ハ、但加等ノ罪ヲ宥メ、本罪ヲ
實断シテ、再ビ叔贖スルヲ聽サズ、三犯以
上ハ、凡人再犯以上ノ例ニ照シテ、加等スト
有之、右ハ初犯再犯共、老小癡疾者ヲ指シ申
タル儀ニテ、若シ初犯十五以下ニシテ、再犯
十五以上實断スベキ者、盜罪、賭博等、加等ス

一、再犯ニ係ル者モ亦但加等ノ罪ヲ宥メ
 本罪ヲ科シ三犯以上ハ凡人再犯以上ノ例
 照シ加等致シ可然哉
 一、但十五年以上トハ、滿十五年一日以上ノ
 責者ヲ可申哉
 再申指令ハ昔ハ田賦等ハ罪ノ重ト本罪ト
 但書共伺之通
 犯罪時未老疾新律綱領
 凡罪ヲ犯ス時未タ老疾ナラズ雖氏事發スル時老
 疾ナル者ハ老疾ニ依テ論ズ

若シ徒ノ年限内ニ在リテ老疾スル者モ亦上條
 ノ如ク收贖スルヲ聽ス
 其罪ヲ犯ス時幼少ニシテ事發スル時長大ナル
 者ハ幼少ニ依テ論ズ

千葉裁判所同十七年一月十四日

常陸國信太郡荒川宿農誠兵衛、兼塚原清吉
 断刑伺御指令、客歲十二月十四日到達仕候
 處、當時眼病ノ由ニ付、處断見合居候内終ニ
 失明及ビ候段、當月九日、縣廳ヨリ、報知有之

候就テハ、改定律例第四十六條ニ盲^{めくら}人^{びと}及ビ
 癡^ち疾^ぢ者^{もの}、強盜^{きやうとう}、強姦^{きやうかん}ヲ犯ス者ハ、實斷^{じつだん}シテ収贖^{しゆじやく}
 スル^{べし}ヲ聽^きサズト有^あ之^の候ヘ氏^し今般ノ儀ハ
 盲人ニシテ、強盜ヲ犯スニアラズ、罪ヲ犯シ
 後^{のち}、盲目相成^{まうめいさうせい}候者ニテ、其情^{そのじやう}懲役限内^{ちやうやくげんない}、老疾
 スルト同シ、依テ懲役十年ヲ収贖ニ換ヘ、犯
 罪^{ざい}、改定律例^{かいだうりよく}、御頒布已前ニ在ルヲ以テ、原律
 収贖例ニ照シ、収贖金十三圓五十錢申付可
 然哉^{しかんざい}、罪案^{ざいあん}之^の相添^{さうぞん}相伺^{さうご}候也
 指令^{しんめい}

犯罪時、未^ま老疾^{らうぢ}條^{じょう}罪^{ざい}ヲ犯ス時、未^まダ老疾^{らうぢ}ナラ
 ズト雖^な、氏^し事發^じスル時^{とき}、老疾^{らうぢ}ナル者ハ、老疾ニ
 依テ論ズトアルニ依リ、本罪懲役十年
 収贖金十三圓五十錢 塚原清吉
 犯時、改定律例頒布前ニ在ルヲ以テ、原律収
 贖例ヲ用ユ

宮城縣伺 三十七年八月
 陸前國宮城郡
 仙臺寺小路高
 市川三代松

右ノ者儀去ル明治六年十二月中、水澤縣ニ於テ、徒三年、處決相成候所、御目ヨリ病氣相發、醫療相加置候得共、追々危篤ノ症ニ立至リ、終身不治ノ難症ニテ、快方目途無之旨、医診斷書差出候ニ付、尚取調候所相違無之、相聞候ニ付、懲役限内、老疾収贖條中、懲役限内ニ在テ、老疾スルヲ以テ論シ、更ニ収贖及處斷候、然ニ同人、元來非優人徒ニ擣ハリ生計相立候者ニ候所、漸次快方ニ赴依テ右自業相營度段、願出候儀ニテ、前條終身不治ノ症

ト及、診察候ハ、全ク醫生ノ誤察ニ依候儀故、即今自業ヲ營ムノ身ト相成候ヘバ、其贖ヲ退ケ、本役ニ服シ可然哉、將醫生ノ誤察ニ出ト雖モ、既ニ及決放候上ハ、不及貼斷活業相營候儀、願大通聞届可然哉、實斷収贖律權衡大ニ相異リ候儀ニ付、此段相伺候也

指令

本文ノ如キハ、再ビ服役セシムルニ及バス、願ノ通聞届不苦候事、
 四 犯罪時、未老疾條例、改定律例

第四十九條 凡懲役限内老疾収贖者、獨貧困ニシテ、即時贖ス可ハザル者ハ、贖金延期限内、輕役ニ拘服ス

滋賀縣伺 十六年七月

犯罪時、未老疾條例、第四十九條、凡懲役限内老疾収贖者云々、贖金延期限内、輕役ニ拘服ストアリ、當縣懲役場、監ニ付、輕重役ノ區別難相設然ルニ現今ノ苦役ヲ監獄則ニ此較スレバ尚輕役ニ似タリ、仍テ贖金延期限

内、其儘苦役爲致候哉

指令

輕役ノ區別、地方ノ適宜ニ從フ妨ゲナシトス

高知縣伺 二十七年二月

縣下、吾川郡、伊野村、平民中田幾三郎ニ女達、幼少ノ頃ヨリ、孝心深ク、奇特ノ者ニ有之、所去ル辛未十二月、父幾三郎、准流ニ處セラレ候ヨリ、悲歎寢食ヲ忘レ、終ニ身ヲ以テ父ノ

罪ニ代ラン事ヲ歎願スルニ至リ、情願尤ニ
ハ候ヘ共、律上ニ差支、難聞届旨ヲ以、懇々説
諭イタシ、其節委曲、大藏省ヘ申出、伺濟ノ上
昨六年一月、褒賞相與候後モ、先願ノ旨趣、時
々戸長ヘ申出、戸長ハ勿論、縣官ニ於テモ、種
々懇諭イタシ候ヘ共、父ノ苦役ニ代ラン事
ヲ歎願スルノ情、益盛ニ相成、加之、別紙畧
醫師容體書ノ通、幾三郎病氣ニモ有之、達ラ
情實、真ニ憫然ニ付、如何處分可仕哉

指令



第四百十二号 明治
四月六日 本
改官 附 告示
脱籍無産之徒復
籍為致候テモ生
業難相立者ハ府
縣送リテ差止メ
杖刑ニ處スルニ
不及其地、徒場ニ
差遣シ罪人ト區
別ヲ立テ追テ獨
立計相立候ハ
、埜地へ入籍為

本犯、懲役限内、癡疾ヲ以テ論ジ、収贖ヲ聽ス
若シ貧困ニシテ、即時贖フ能ハザレバ、律例
第四十九條ニ依リ、贖金延期限内、輕役ニ拘
服ス

但延期限内、贖フ能ハザレハ、直ニ放免ス

和歌山縣 同 十五年 四月 十五日

懲役限内、癡篤疾ニ罹ル者、醫案確實ナレバ
収贖ヲ免シ候得共、赤貧無告ノ民ニメ、贖フ
不能ハザレハ、贖金延期限内、輕役ニ拘服ス
ト雖モ、尚輕役ニ服スル能ハザレハ、直ニ放

致候様光被御布告相成居候に於て、度懲役法被相設候に付、本罪可受之日數、懲役ニ服シ期限満テ猶徒場ニ留メ罪人ト別異シ其身相當ノ使役申付置餘ハ徒前御布告之通可取計事

免シ、其本籍ニ下附スレ氏、下附スル本籍無ケレバ、更ニ區戸長ニ命ジ、加籍致サス可ク候得共右様ナル患者ヲ附托スルモ困頓ニ耐ヘズ、因テ懲役場ニ入レ、公費ニ該テ可然哉

指令

壬申第百十二号ノ御布告ニ照シ、處分スベシ

第五十條 凡懲役一年以上ノ罪犯、病ニ罹リ、休役スル者、一年毎ニ日數五十日以内ハ限内ニ

算入シ、五十日以外ハ病愈ルヲ待テ、仍ホ役ヲ償ハシム、百日以下ノ罪犯、日數十分ノニハ算入シ十分ノニニ過ル者ハ、亦償ハシム、若シ數次ニ及ブ者ハ、通計合算シテ兼除ス、其役場ヲ出シテ責付スル日數ハ、一體ニ限内ニ算入セズ

滋賀縣伺 十六年七月十四日

條例第五十條、懲役一年以上ノ罪犯、病ニ罹リ云々、五十日以外ハ役ヲ償ハシムトアレ氏、五十日以内ナレハ、限内ニ算入スルニ付

假令五十日以外ト雖氏、五十日ハ限内ニ入
レ、残り日數ヲ償ハシメ候哉
指令
伺之通

廣島縣伺二十三年三月

改定律第五十條云々、病ニ罹リ休役スル者
一年毎ニ日數五十日以内ハ限内ニ算入ス
ト有之ハ、假令懲役三年ノ者、甲年十日ノ休
役アルハ、甲年中ノ休役トシ、乙年ハ八十日
ノ休役アルハ、五十日限内ニ算入シ、三十日

ハ病愈ルノ後償ハシメ兩年ハ六十九日ノ
休役ハ、五十日ヲ限内ニ算入シ、十九日ハ償
ハシメ候キハ、乙丙ノ休役合シテ四十九日
休役ニ相成候付、累年ノ休役若干日數ハ滿
年ノ後償ハシメ候哉、或ハ第一條ノ如ク一
年毎ニ休役ノ日數ヲ記シ置滿年ノ際一年
毎ニ割付ケ候キハ、懲役十年ニシテ、五百日
ノ休役ハ、限内ニ算入候様相成候へ共、一
條ノ内何レニ相心得可然哉

指令

御役三年ノ休役ハ百五十日、十年ハ五百日、
満期ノ際、合算シテ棄除ス可シ

廣島縣伺 二十一年八月
懲役人、疾病ニテ休役スル時ハ、改定律例第
五十條ニ依リ、處置致候ハ勿論ノ儀ニ御座
候所、今般御届仕候通、今二十一日、俄然ニ暴
風雨ヲ起シ、遂ニ廣島水主町ニ有之懲役場
一時ニ轉倒シ、罪囚五十名餘、不慮ノ傷ヲ蒙
リ、其景況不忍見、如何ニモ憫然ノ至リ候處

廣島縣伺 二十一年八月
懲役人、疾病ニテ休役スル時ハ、改定律例第
五十條ニ依リ、處置致候ハ勿論ノ儀ニ御座
候所、今般御届仕候通、今二十一日、俄然ニ暴
風雨ヲ起シ、遂ニ廣島水主町ニ有之懲役場
一時ニ轉倒シ、罪囚五十名餘、不慮ノ傷ヲ蒙
リ、其景況不忍見、如何ニモ憫然ノ至リ候處

右等ノ分ハ、五十日内外ニ不^{カハラス}拘^{カハラス}休役スル日
數限内ニ、算入シ、遣シ候儀ハ、不相成候哉

指令

改定律例第五十條ニ依テ處分ス可シ

給没贓物

凡取與俱ニ罪アル、受賤、枉法、不枉法ノ贓、及ヒ犯
禁ノ物ハ、並ニ官ニ没入ス、若シ取與俱ニ和セズ
認^{ホツ}罵^{ホツ}、詐^{ホツ}欺^{ホツ}、強^{ホツ}賣^{ホツ}買^{ホツ}、科^{ホツ}斂^{ホツ}、求^{ホツ}索^{ホツ}等ノ贓ハ、並ニ本主ニ
追還ス
若シ強竊盜、枉法、不枉法、坐贓等ノ贓ヲ以テ罪ニ

入ルニ、正贓現在スル者ハ、官物ハ、官ニ還シ、私物
ハ、主ニ還ス、若シ正贓已ニ費用スル者ハ、追徴ス
ル^{ソトガニ}勿^{ソトガニ}レ、埋^{ソトガニ}葬^{ソトガニ}金^{ソトガニ}兩^{ソトガニ}、雇^{ソトガニ}工^{ソトガニ}賃^{ソトガニ}錢^{ソトガニ}モ、本^{ソトガニ}犯^{ソトガニ}身^{ソトガニ}死^{ソトガニ}スレバ、
亦追徴スル^{ソトガニ}勿^{ソトガニ}レ
其贓物ノ價錢ヲ估^{ソトガニ}計^{ソトガニ}スルハ、皆犯^{ソトガニ}處^{ソトガニ}當^{ソトガニ}時^{ソトガニ}中^{ソトガニ}等^{ソトガニ}ノ
物價ニ據テ、罪名ヲ定ム、夫匠等ノ工錢ハ、一人一
日ニ若干錢ヲ以テ定數ト為シ、牛馬車船等ハ、時
ノ雇^{ソトガニ}工^{ソトガニ}賃^{ソトガニ}值^{ソトガニ}ニ照シテ、日數ヲ算シ、賃錢多シト雖
モ、其本物ノ價ニ過ル^{ソトガニ}ヲ得ズ

新瀉縣同十六年十一月

其給沒贓物律三、強竊盜枉法、不枉法、坐贓等ノ
 贓ヲ以テ罪ニ入ルニ正贓、現在スル者ハ、官
 物ハ官ニ還シ、私物ハ主ニ還スト有之、若シ
 本犯取調中、病死スルモ、仍ホ追寃シテ、本法
 ヲ盡スベキ哉
 正贓現在スレバ伺之通
 給沒贓物條例
 第五十一條 凡正贓、現在ト稱スルハ、贓ノ手

ニ存在シ、及ヒ轉シテ、他人ノ手ニ在ル者ヲ
 謂フ、若シ買取シテ、公商公買ニ由ル者ハ、正贓
 現在スト、虽モ、商賈其價ヲ償ハザレハ、直ニ追
 徴スルヲ得ス

京都裁判所同七年三月

農夫ニシテ、穀物ヲ市ニ鬻グ者アリ、然ルニ
 其所鬻ノ穀物、盜贓ニ係ルニ依リ、之ヲ追徴
 スルニ、其買得者ハ、農夫ヨリ買取スルヲ以
 テ、農夫ヲ公商ト見做シ、改定律例、第五十一

條ニ照シ、致處斷可然哉

指令

伺之通

第五十二條 凡贓物、現在シ、及ビ現在セズト虽
氏、事主、本犯ノ口供ヲ審明シ、シ評價人ニ估計セ
シム、若シ犯所、遠隔ニシテ、事主ノ口供ヲ審ス
ルニ、便ナラサル者ハ、本犯ノ口供ニ依リ、罪ヲ
定ム、

滋賀縣伺 二十七年五月八日

賊贓ヲ賣却シ、賣先知レサル片ハ、事主ノ口
供ニ因リ、評價人ニ估計セシムルニ最初、賊
賣拂候直段ヨリ、却テ下直ニ相成候儀問々
有之、右ハ空物估計スル儀ニ付、賊賣拂直段
ヲ真價ト看做シ、罪ヲ定メ可然哉
但シ贓物、現在シテ、評價人ニ估計セシム
ルニ、賊賣拂直段ヨリ下直ニ相成候分ハ、持
古シ候等ノ儀ニ無之ハ、假令下直ニ相成
候共、估計代ヲ以テ、罪ヲ定メ可申哉
指令

賍物現在セズト雖氏事主本犯ノ口供ヲ審
明シ評價人ニ估計セシメテ罪ヲ定ム即例
第五十二條ニ明文アリ本文ノ如ク縱令盜
犯賣却ノ價ヨリ齋價ナルモ評價人估計ノ
價值ニ據テ罪ヲ定ム可シ但シ物品盜犯ノ
手ニ在リ或ハ他ニ轉轉スル等歲月ヲ經ル
ニ從テ毀損スル如キハ現品ノ價值ヲ估計
セズ犯時ノ物品價值ヲ估計シテ罪ヲ定ム
但書ハ伺之通

島根縣伺 三十七年五月

甲ナル者公商ニシテ自ラ盜ム所ノ物品ヲ
盜賍タルヲ押隠シ乙ニ賣却ス乙モ亦公
商ニシテ其買取スル所ノ物品ヲ丙丁ニ賣
却ス丙丁已ニ費用シテ現在セサル片ハ乙
ヨリ賣代金賣徳共取上テ本主ニ給シ甲ヨ
リ乙へ初メ賣ル所ノ代金ヲ賠償セシメ甲
賠償ス可キ資力ナケレバ乙ノ損失ト見做
ス可キ哉
前同断乙甲ヨリ買取スル所ノ物ヲ費用シ

現在セザル時ハ、正贓ヲ估計シ、甲ヨリ追徴
シ、本主ニ給シ、若シ、資力ナケレバ、本主ノ損
失ト見做ス可キ哉

指令

改定律例第五十二條ニ依リ、正贓ノ價值ヲ
估計シ、盜犯タル、甲ヨリ追徴シテ、事主ニ給
ス、若シ、資力ナケレバ、事主ノ損失ト為ス、乙
以下關係ニ及バス

第五十三條 凡盜賊タルヲ知ラズト虽モ買
取シテ、公商、公賈ニ由ラザル者ハ、直ニ追徴ス

ルヲ得、其轉賣スル者ハ、仍ホ轉償セシム

三瀨縣伺 六年十二月十二日

改定律例第五十三條、凡盜贓云々、右ハ買取
者、又ハ轉賣取ノ手ニ、正贓現在ノ儀哉、若シ
買取者、若クハ轉賣取ノ手ニ、正贓損傷スルカ
又ハ路人等、行方不知ズシテ、正贓現在不致
ハ、盜難主ノ損ニ候哉、又ハ盜犯ヨリ、初テ買
取ノ者ア、盜犯ニ買取價直ヲ以テ、金錢ヲ
徴シ、本主ニ可給哉

指令
買取云々、現在スルヲ云フ、現在セザル者ハ、
第五十二條、第五十五條ニ依ル、
三潞縣伺^{六年十月二}
盜犯竹木等ヲ盜シ、賣却シ、其情ヲ知ラズ買
取メ者、自己宅舎、營繕等ニ用ヒ候ハ、^{盜難}
主ノ損ニ可有之哉、又ハ買取價直ノ金錢ヲ
徴シ、本主ニ可給哉

指令

改定律例第五十三條ノ通り

兵庫裁判所伺^{七年三月十六日}

盜贓ニ係ルト虽モ、買取スルニ、公商公賈ニ
由ル者ハ、直チニ追徴ヲ不得ノ例ニ候處、高
賈ニ由ラザルモ、^{ウナ}牙保有テ買取スル者ハ、牙
保、其價ヲ償ハザレバ、是亦直チニ追徴ヲ不
得ト相心得可然哉

指令

牙保アリト虽モ、買取シテ、公商公賈ニ由ラ

ザル者ハ、改定律例、第五十三條ニ依テ、處分
ス可シ

島根縣伺 三十七年五月
三十日

改定律、第五十三條、盜贓タルヲ知ラズト
虽、買取シテ、公商公賈ニ由ラザル者ハ、直ニ
追徴スルヲ得ト、若シ盜犯資カアレバ、買
取者へハ、盜犯ヨリ賠償セシム可キ哉

指令

伺之通

埼玉裁判所伺 三十七年十月
十四日

凡ソ商賈、其商業ニ係ル物品ト虽モ、素人ヨ
リ買取シ、及ヒ素人相互ニ賣買スル者、牙保
ナキハ、公商賈ニ由ラサルヲ以テ論ズ可キ
哉、御指令ニ、牙保ノ有無ニ論ナク、伺之通
リ處分スベシトアリ、然ルニ、其商業ニ係ル
者ノ内、假令バ、古着、古道具等ヲ以テ、渡世ス
ルハ、其元ト必ス其商家ヨリ買取スルニア
ラズ、多クハ各人持古セシ物ヲ賣却スルヲ
買受商法相立ルハ、素人ヨリナリ、故ニ今之ヲ
以テ、其牙保ノ有無ニ論ナク、一般公商賈ニ

由ラザル例ニ照シテ論ズル、或ハ恐ル、其情ヲ得ズシテ、イリカゲンカ稍々聊嚴苛ニ近カラニカト、依テ右素人ヨリ、其商業ノ者へ、買取スル一節ニ於テハ、其牙保ノ有無等ヲ以テ、各別ニ處分スル方法有之、間敷哉、具書其商賈ニ依ラザルモノハ、
指令

第五十四條 凡轉賣スル、シテ賍物ハ、轉償セシムト

虽モ、若シ轉償者、死亡、破産等、追徴スルヲ能ハザレバ、シテ賍物現在ノ所ヨリ、直ニ追徴スルヲ得、其公商公賈ニ由ル者ハ、此例ヲ用ヒズ

小倉縣伺 七年四月二十五日

改定律、第五十四條、凡轉賣スル、シテ賍物ハ、轉償セシムト、虽モ、若シ轉償者、死亡、破産等、追徴スルヲ能ハザレバ、シテ賍物現在ノ所ヨリ、直ニ追徴スルヲ得、其公商公賈ニ由ル者ハ、此例ヲ用ヒスト、有之ニ付、公商公賈ニ由リ、物品ヲ買取シ、然シテ後、盜賍タリト、虽モ、商賈、其價

買償ハサレバ追徴スルコト得ズ然ル処右公商公
賈資力乏シカ償却難相成者ハ身代限處分ノ上
若干ノ買取者へ償金高ニ應シ配賦シ尙不足金相
立候ト虽モ現在ノ賍物ハ追徴シ事主へ還付可然
哉抑亦公商公賈他日身代持直悉皆價ヲ償ハ
ザレバ買取者ヨリ追徴セズシテ可然哉

指令

無カニシテ償フコト能ハザレハ資力アル限
リ追徴シ仍ホ金數不足スル時ハ事主ノ損
失トス但シ負債身代限ノ法ト異ナリ

カリガキ

第五十五條

凡盜犯正賍已ニ費用シテ現在セ
ズト雖モ賠償ス可キ資力アル者ハ必ズ追徴

シテ本主ニ給ス

新瀉縣伺

六年十一月十七日

改定律五十五條ニ盜犯正賍已ニ費用シ現
在セズト雖モ賠償スベキ資力アル者ハ必
ズ追徴シテ本主ニ給スト有之右追徴ノ心
得左ノ通ニテ可然哉假令ハ盜犯資産金百
圓アリ他ノ負債百圓アリ賠償スベキ金モ
亦百圓ナル時ハ賠償スベキ資力ナキ者ト

シ、追徴スルニ及バサル哉、盜犯、資産百五十
円アリ、他ノ負債百円アリテ、賠償スベキ金
五十円ナル時ハ、資力アル者トシ、五十円追
徴シテ、本主ニ給スベキ哉、盜犯資産二百円
アリ、他ノ負債百円アリテ、賠償スベキ金百
五十円ナル時ハ、百円ヲ追徴シテ、本主ニ給
シ、不足ノ五十円ハ、本主ノ損失トスベキ哉

指令

事主へ全ク賠償セシムベシ
三潯縣伺 六年十二月

綱領、給没贓物條内、若シ強盜去々、改定律例、
第五十一條、正贓現在ト稱去々トアリ、然ル
ニ、假令ハ、緝屋ニテ情ヲ知ラズ、盜犯ヨリ盜
藍ヲ買取シ、其贓ヲ添汁ニシ、現在不致ハ、追
徴セズシテ、盜難主ノ損ニ可有之哉、又ハ盜
犯ヨリ買取スル價位ヲ以テ金錢ヲ追徴シ、
本主ニ可給哉、
盜藍タルヲ知ラズ、買取シテ添汁ニシテ、現
在セズト雖、盜犯資力アレバ、第五十五條

今通リ

三猪縣伺 十六年十二月

改定律例第五十五條、凡盜犯正贓去々、假令
ハ盜贓ヲ賣却シ、買取ノ者其物ヲ費用スル
力、若クハ又賣却シ、物品、現在不致ハ、本主ノ
損ニ可有之哉、又ハ本犯賠償スベキ資力ノ
者ハ、賣却價直ノ金錢ヲ本犯ヨリ徴シ、本主
ニ可給哉
指令
費ト稱スルハ正贓所在ヲ知ラズ、及ヒ消費

スル等ヲ謂フ、盜犯ヨリ追徴スル、正贓ヲ估
計シテ、其價ヲ追給ス

山梨縣伺 十七年十月

改定律例第五十五條、凡盜犯去々トアリ然
ニ、首從、又ハ竊盜、又ハ詐欺等以罪ヲ犯シ
假令ハ、贓金百圓ヲ盜取、從ハ逃走シ、首一人
捕縛相成、及糾問及テ所、右百圓ノ内、七十圓
ハ、從持去、以三十圓、首、配分受テ、既ニ費用反
ト申立ル時ハ、賠償ノ儀、首一人ニ全贓百圓
ヲ償ハシ、從者、又ハ配分受ル所ノ三十

四ノ賠償可為致哉
 申指令
 首、徒、共ニ捕ニ就ク時ハ、共ニ賠償セシム可
 シト雖、凡、首犯捕ニ就キ、從ハ脱逃ス、其捕獲
 ノ日ヲ期シ難シ、又事主ヲシテ、損失ヲ蒙ラ
 シム可ラズ、首犯一人ヲシテ、全贓ヲ賠償セ
 シム可シ
 三重縣 同 七年四月
 十二日
 改定律例、第五十五條、凡、盜犯、正贓、已ニ費用
 シテ、現在セズト雖、凡、賠償ス可キ、資力アル

者ハ必ス追徴シテ、本主ニ給スト有之、右資
 力ハ本犯所有ノ金穀ハ勿論、田宅、家財、及ヒ
 炊器、衣類等、悉皆資力ト見做シ、盜贓、抵償ニ
 追徴シ可然哉、然ル時ハ親屬妻子アル者、忽
 チ活計ノ途ヲ失シ候儀ニ付、身代限リノ法
 ニ依リ、相當ノ物品ヲ殘シ、剩餘ノ物ヲ追徴
 可致儀哉、又別段御規則有之候哉
 指令
 盜贓ノ追徴ハ民法身代限リノ法ト異ナリ
 着用衣服下ノ用ノ炊具ヲ除ク外ハ資力限

リ追シテ償還ス可シ是レ領々長ハ賣成
 白川縣伺 七年七月 三十日
 改定律五十五條凡盜賊正賊已ニ費用シテ
 現在セズト雖尺賠償スベキ資カタル者ハ
 必ス追徴シテ本主ニ給スト有之若シ本犯
 一家ノ尸主ニシテ多少ノ財産ヲ所有スル
 モ身死シテ正賊現在セザル時ハ縱令子孫
 其家ヲ継ギ其財産ヲ受ルモノト雖尺尋常
 金穀貸借ヲ子孫ヨリ辨償スルトハ事替リ
 候ニ付賠償セシメズシテ可然哉

指令 伺之通

第五十六條 凡盜賊タルヲ知ラズト雖尺其
 餽送纏頭ニ係ル者ハ必ス追徴シテ本主ニ給
 ス、若シ已ニ費用スル者ハ追徴スルヲ勿レ
 三瀦縣伺 六年十二月 二日
 改定律例第五十六條凡盜賊去々トアリ右
 餽送纏頭ニ受ル賊ヲ賣却シ其買取ノ者費
 用シテ現在不致ハ本主ノ損ニ可有之哉又
 ハ賣却ノ金錢ヲ徴シ本主ニ可給哉

指令

本條ニ費用スル者追徴スルヲ勿レト、明瞭ナリ

第五十七條

凡盜賊ヲ以テ物品ヲ買取シ、人ニ

餽送スルニ、物品現在スル者ハ、追徴シテ本主

ニ給ス、若シ已ニ費用スル者ハ、追徴スルヲ勿

山形縣伺 七年四月十八日

凡盜賊ヲ以テ物品ヲ買取シ、人ニ賣却スル

ト雖、改定律例、第五十七條ニ依リ、處斷可

致哉

指令

賣却ノ金費用セザレハ、追徴シテ本主ニ給

ス、若シ費用スレバ、資力アル限り追徴ス

第五十八條 凡盜賊ヲ以テ贖償ニ抵償スル者

ハ、贖注情ヲ知ラズト雖モ、仍ホ追徴シテ本主

凡正贓轉讓シテ遠地ニ在ル者、其郵遞費用ハ、本

犯ニ償ハシムト雖モ、本犯資力ナケレバ、本主ニ償ハシム、若シ本主郵通ノ経費ヲ厭フ者ハ、正脏所在ノ地ニ於テ其物品ヲ販賣シ、金圓ヲ本主ニ還給ス

島根縣伺 三十七年五月十日

改定律第五十六、五十七、五十八條、盗賊タルヲ知ラズト雖モ、其餽送纏頭ニ係リ、及ヒ盗脏ヲ以テ物品ヲ買取シ、人ニ餽送シ、若シクハ盗脏ヲ以テ舊債ニ抵償スル等、已ニ費用

スルハ追徴スル勿レト右ハ其餽送纏頭ヲ受ル人、及ヒ債主ヨリハ追徴セズト雖モ、盗犯資力アレバ、盗犯ヨリ追徴シ、本主ニ給ス可キ哉

指令

伺之通

白川縣伺 七年十一月九日

爰ニ盗難ニ遭ヒ、賊ノ踪跡ヲ知ラザル者ア、數日ヲ経、其盗マレシ物品、他人買取所持セルヲ、事主探偵シ、其旨申立候ヘバ其盗難

ノ事跡ト他人買取セシ手續ヲ推糾シ疑ナ
クモ賊ヲ得スト雖モ贓物給没條ニ照シ
處分致來候處御省日誌本年第四百十九號
警視廳伺第三項甲ヨリ竊取セル物品ヲシ
ノ家ニ捨置シ如キハ賊捕ニ就カザルモ盜
マレ主明白ナル片ハ如何哉盜レ主明白ナ
リト雖モ其賊捕ニ就テ待テ後處分スベシ
ト御指令アルニ依レバ前文他人買取致シ
居ル物品ノ如キモ賊ヲ得ルノ後ニ非レバ
處分難相成儀ニ有之左スレバ事主ノ困窮

ハ勿論若シ賊終身踪跡ヲ得ザル片ハ際限
モ無之實地施行上甚ダ差問候條右ハ従前
ノ通處分可然哉

指令

贓物事主明白ナル片ハ賊ノ捕得ト否ニ係
ラス贓物給没條ニ照シテ還給不可シ
犯罪自首 新律綱領

凡罪ヲ犯シ事未タ發覺セズレテ自ラ出首スル
者ハ其罪ヲ免ス贓アル者ハ仍ホ追徴レテ官物
ハ官ニ入レ私物ハ主ニ給ス

其本犯、人ヲ遣シテ代首セシム、若シクハ相容隠
スルヲ得ル者爲ニ代首シ、及ヒ告言スルハ、各
罪人自首法ノ如ク罪ヲ免ス、若シ自首シテ不實
不盡ナル者ハ、不實、不盡ノ罪ヲ以テ之ヲ罪ス假
令ハ本犯強盜ヲ竊盜ト首スレバ、其不實ナルヲ
以テ、強盜ノ罪ニ坐ス、若シ竊盜、賊一百兩又六十
兩ト首スレバ、其不盡ナルヲ以テ、仍ホ四十兩ノ
罪ニ坐ス、若シ首スルトコ口、不實ノ罪重ク、不盡
ノ贓多クシテ、各罪死ニ至ル者ハ、一等ヲ減ズル
ヲ聽ス、若シ人ノ官ニ陳告セシト欲スルヲ

知テ、自首スル者ハ、本罪ニ一等ヲ減ス
其人ヲ損傷シ、及ヒ賠償ス可ラザルノ物ヲ毀棄
シ、若クハ毒スル者ハ、並ニ、自首ノ律ニ在ラズ
若シ強竊盜、及ヒ詐僞シテ、贓物ヲ取リ、事主ノ處
ニ於テ首服シ、或ハ枉法、不枉法ノ贓ヲ受ケ、過ヲ
悔ヒテ、本注ニ還付スル者ハ、官司ニ自首スルト
同ク、皆其罪ヲ免ス、若シ人ノ告シト欲スルヲ知テ、
賊主ノ所ニ於テ首還スル者ハ、一等ヲ減ズ
若シ自首シテ、贓、徵ス可ラザルハ、二等ヲ減ズ

滋賀縣伺十七年二月

犯罪自首條ニ枉法不枉法ノ贓ヲ受ケ過ラ
 悔ヒテ本主ニ還附スル者ハ官司ニ自首ス
 ルト同ク皆其罪ヲ免ストアルニ依リ其贓
 罪ハ免スト雖氏枉法ニ至ツテハ其法ヲ枉
 ルノ罪ハ官司ニ自首スルニ非ザレハ免罪
 セサル儀哉
 枉法不枉法ノ贓本主ニ還付スル者ハ罪ヲ
 免スト雖モ與フル者ハ仍ホ本罪ヲ科シ其
 賅ハ取與俱ニ罪アル物ニ付官ニ没入シ可

然哉

指令

第一條 受贓ノ罪ハ免スト虽モ故出入ノ

罪已ニ決放スル者ハ官司ニ自首スルト虽

モ首免ヲ與フルノ限ニ非ラス但故失出

入ノ罪未タ決放セヌ官司ニ自首スル者ハ

首免ヲ與フ

第二條 與フル者別ニ論ス可キノ罪アレ

ハ仍ホ律ニ依リ科斷スト虽モ其坐贓ノ罪

ハ不問ニ置ク財物モ官没スルノ限ニアラス

愛知縣伺 七年五月二十四日

本年五月四日、別紙寫之、盗犯、盗取スル
金ヲ費用スルノ後、資産金ヲ以テ賠償シ、自
首スル者、自首律ニ正條無之ニ付、處分ノ儀
相伺候處、同月十九日、伺ノ通ト御指令相成
右ハ、犯罪自首條ニ照シ、免罪ト相心得可然
哉

指令

伺之通、但自首ハ、全ク贓ヲ償フ者ニ非レ
バ、全免ヲ與ヘズ、資金ヲ携ルト、追徴ニ係ル

ト、差異アルナシ、本犯ノ如キ即チ免罪

京都裁判所伺 三年八月

新律、犯罪自首條、若自首シテ、贓、徴ス可カラ
ザルハ、二等ヲ減ス、是其盜犯、悔悟自首スト
雖、贓徴スルヲ能ハズ、事主人損耗ニ係ル
ニ依リ、全免ヲ聽サズ、減二等ノ法ニ從フカ、
若シ然ラバ、今爰ニ盜賊二人アリ、其一人過
ヲ悔ヒ、其重犯ヲ捕獲シ、官衙ニ至リ、投首ス
レバ、犯罪共逃條ニ照シ、首告ノ罪、全免ス可

キ處其自ラ盗ム所ノ賍已ニ費用シテ賠償
スルヲ能ハザレバ仍ホ全免ヲ聽サズ減ニ
等ノ法ニ從フ可キ歟將又是等ハ賍ノ微不
徴ニ係ハラズ全免スルニ可有之哉果シテ
然ラハ其首告者ノ罪ハ捕獲ノ功勞ニ依テ
全免シ事主ノ損耗ニ至ツテハ官措テ顧ミ
ザルモノ^{ヌスレタシ}如ク而シテ其自首シテ賍徴ス
可カラザル者ニ等ヲ減ズルノ旨趣ニ相照
合セザルニ似タリ^{ヲモハキ}
右同條自首シテ賍徴ス可カラザルニ依リ

二等ヲ減ジ人ノ告ント欲スルヲ知テ自首
スル者モ同減二等ノ條例アリ然ルニ其盜
犯ニ於ル多クハ是^{ビシホカ}貧苦^{ウツクサ}困難^{クニガシ}ノ者無智^{チカナイ}ノ所
^{ホシ}為ニ出デ而シテ偶良心^{ホシミン}ヲ生ジ過^{チカナイ}ヲ悔ヒ投
首ニ及ブ者賍徴スル能ハザルトテ其罪總
ニ二等ヲ減シ人ノ告ンヲ欲スルヲ知リ首
出致シ真ニ罪ヲ悔ルノ心ナキ者同二等ヲ
減ズルハ其情狀^{コトイキ}ノ輕重於テ斟酌^{カゲン}ノ權^{ケン}猶如
指令

第一條、犯罪共逃條ハ、事已ニ官ニ發シ、禁
ニ在ル者ヲ謂フ、重犯及ヒ同逃、一半以上ヲ
捕獲シテ、首告スレバ、其功以テ、罪ヲ贖フニ
足ル、故ニ其本罪ヲ免ス、本文ノ如キハ、事官
ニ發シ禁ニ在ルノ罪囚ニ非ス捕獲功勞ノ
有無ニ論ナク自首律ノ後項ニ依リ、本罪ニ
二等ヲ減ス
第二條、悔悟ノ情ハ、原ス可シト雖氏、事主
ノ損失ヲ贖フト能ハズ、故ニ本罪ニ二等ヲ
減ズ、人ノ告ント欲スルヲ知テ、自首スル者

ハ、贓、徴ス可キモ二等ヲ減ス、權衡不妥ニ非
ズ、律例ノ通心得可シ

犯罪自首條例

第五十九條、凡罪ヲ犯シ、人ノ官ニ陳告セント
欲スルヲ知テ、自首スル者ハ、本罪ニ一等ヲ
減ズ、ル律ヲ改メ、減ニ等ニ從ヒ、官ノ捕獲セン
ト欲スルヲ知テ、自首スル者ハ、本罪ニ一等
ヲ減ス

開拓使ヨリ問合 七年一月五日

竊盜、一百圓ヲ盜シ、悉ク費用スルノ後、人ノ
陳告センヲ知リ、自首スル者ハ、改定律、第五
十九條、凡罪ヲ犯シ、人ノ陳告セント欲スル
ヲ知、自首スル者ハ、本罪一等ヲ減ズル律
ヲ改メ、減二等ニ從ヒ、懲役二年半ニ處斷シ、
勿論ノ儀ト存候ヘ共、又竊盜アリ、同ク百圓
ヲ盜シ、皆費用スルノ後、真實先非ヲ悔ヒ、自
首スル者、改定律、第六十四條ニ據レバ、徵ス
ルヲ能ハサル賊ニ、二等ヲ減シ、罪ヲ科スト
有之ニ付、真實悔悟ノ自首モ、人ノ告ンヲ知

リ自首スルモ、賊徵スル能ハサル者ハ、各其
罪同シク、科斷致候事ニ候哉

回答

律ノ通御心得之アルベキ事

筑摩縣伺 七年五月三日

改定律例、第五十九條、凡罪ヲ犯シ、人ノ官ニ、
陳告セント欲スルヲ知テ、自首スル者ハ、
本罪ニ一等ヲ減ズル律ヲ改メ、減二等ニ從
フト有之候、就テハ其強竊盜、及ヒ詐偽シテ、
財物ヲ取リ、或ハ、枉法、不枉法ノ罪ヲ受ケ、人

ノ告ント欲ルヲ知テ、賊主ノ所ニ於テ首還
スル者モ、事理ニ於テ、均ク減ニ等ニ從ヒ處
斷可然ト存候ヘ共、律上正文無之候ニ附、此
段相伺候也

指令

伺之通、二等ヲ減ズベシ

第六十條 凡罪ヲ犯シ、事已ニ告發ヲ經ルト雖
モ、本犯未ダ知ラズ、及ビ官、罪犯ノ名ヲ知ラズ
シテ、自首スル者ハ、仍ホ未發自首ト同ク、並ニ
罪ヲ免ス

筑摩縣伺 七年十一月八日

改定律例第六十條、凡罪ヲ犯シ云々、並ニ、罪
ヲ免スト、然ルニ、爰ニ一罪共犯數名アリ、其
内幾名ハ、已ニ告發ヲ經テ執縛、或ハ喚問ニ
係リ、残り幾名ハ、官未ダ其名ヲ知ラサルヲ
以テ、捕拿喚問ノ儀ナキニ際シ、自餘ノ犯者
モ、其執縛、又ハ陳告セラレントテ、恐察シ、自
首スル者アリ、右ハ前頭ノ如ク官未ダ其名
ヲ知ラサルモノニ付、未發自首ト同ク、其罪

ヲ免シ可然哉、別紙、山岸千代藏、外貳人罪案
賭博、同犯ノ者、就縛ヲ聞キ、捕拿、喚問、相添、此
ノ事ナキ前、村吏ニ依テ、直ニ自首ス相添、此
段相伺候也

指令

賭博罪ハ、現場、捕獲、及ヒ其一場ニ連ナル、同
類ノ者ヲ坐スルヲ、律ノ適旨ト爲ス、此千代
藏、外二人口供ノ如キハ、官未ダ罪犯ノ名ヲ
知ラズ、自首スル者ナルヲ以テ、未發自首者
ト同ク、罪ヲ免ス

第六十一條 凡越獄、逃走シテ、自首スル者ハ、止

又加等ス可キ、罪ヲ減シテ、本罪ハ減ズルヲ
聽サズ

第六十二條 京都裁判所同 三十七年八月一日

罪囚、夥多同逃スルニ其内一人投歸シ、真ニ
過ヲ悔ルヨリ、爲三同逃重犯ノ所在ヲ告ケ、
官之ヲ捕得スル片ハ、其投歸者ハ加等ノ罪
ヲ宥メ、仍ホ例三百四條ニ準ジ、本罪一等ヲ
減シ可然哉、將又懲役人ニシテ投歸シ、右同
様ノ者アラバ、其棒鎖ノ罪ヲ宥メ、仍ホ本罪

一等ヲ減ズ可キ哉、將々前後各本罪ハ減等
ヲ聽ササルニ可有之哉

前半ハ例第六十一條ニ依リ加等不可キ罪
ヲ免シ、後半ハ、第三百三條ニ依テ、逃罪ヲ免
ス

第六十二條凡贓罪ヲ犯シ、人ノ告ント欲スル
ヲ知テ自首シ、贓徵ス可ラザル者モ、例ニ照
シテ、本罪ニ、二等ヲ減ズ

第六十三條凡首免ヲ與フルノ事ニ因リ、首免

ヲ與ヘサル罪ヲ犯シ、自首スル者ハ、因ル所ノ
原罪ヲ免シ、止々首免ヲ與ヘサルノ本罪ヲ科
ス、假令ハ強竊盜ヲ犯シ、因テ人ヲ殺傷スル者
ハ、其強竊盜ハ首免ヲ與フト雖モ殺傷ハ、謀故
闘過失ノ各法ヲ盡スノ類

第六十四條凡罪ヲ犯シ、自首スル者、假令ハ、竊
盜贓百圓、五十圓ハ、仍ホ現在シ、五十圓ハ、己ニ
費用シテ、追徵スルヲ能ハサレバ、五十圓ノ贓
ニ二等ヲ減ジテ、罪ヲ科ス、其餘ノ贓罪モ、亦之
ニ準ス

第六十五條 凡人ヲ罪ニ誣告シテ、自首スル者ハ、已斷未斷ヲ分テ、未夕受斷ヲ經サルハ、仍ホ首免ヲ聽シ、已ニ受斷ヲ經ルハ、告誣ノ本罪ヲ科ス
第六十六條 凡罪ヲ首シ、減免ヲ經ルノ後、再ヒ同罪ヲ犯ス者ハ、減免スルヲ聽サズ、若シ前後犯罪、各別ナル者ハ、此限ニ在ラス

京都裁判所 同 九年十月
竊盜律ニ、處斷スル 懲役人、最前包藏スル、二

次ノ内、一次ヲ首スルニヨリ、減免ヲ與フル處、又其一次ヲ再首スル者アリ、右ハ、改定律例、第六十六條、減免ヲ經ルノ後、再ヒ同罪ヲ犯ス者ハ、減免スルヲ聽サズト云ニ、此照シテ可然哉、又ハ再首スト雖氏、其犯罪ハ、ニ首スル罪ト、同時ノ犯ニ係ルヲ以テ、初度ノ出首ト同ク、減免ヲ與フル乎、但再首スル罪、假令ハ、賭博等ニテ、別罪ト雖氏、最前ヨリ包藏スレハ、竊盜ヲ犯シ、自首シテ、減免ヲ經ルノ後、又賭博ヲ犯シ、首スル者ト、其情狀

異ナレバ、此亦減免ヲ与ヘズシテ可然哉、又ハ律例第六十六條前後、犯罪各別去トアルニ比擬シ、減免可致哉

指令

本文ノ如キハ、再首ニ係ルト雖モ、先ニ減免ヲ與フル罪ト、同時ノ犯罪ナレバ、例第六十六條、自首減免ノ後、再ヒ同罪ヲ犯ス者ト、大ニ異ナリ、初度ノ出首ト同ク、減免スルトヲ聽ス、但書本條ト同ク、首免ヲ與フ

第六十七條 凡華士族、罪ヲ犯シ、自首スル者、破

廉耻甚ニ係ルト雖モ、本條、自首ヲ聽ス可キ者ハ、一體ニ罪ヲ免シ、除族スルノ限ニ在ラズ

第六十八條 凡華士族、罪ヲ犯シ、人ノ告ント欲スルトヲ知テ、自首スル者、本條、自首ヲ聽ス可キ者ハ、罪減等セズシテ、閏利ニ處シ、破廉耻甚ヲ以テ論ゼス

第六十九條 凡知、人欲告而首ト稱スルハ、名ヲ指テ官ニ告ゲ、事、已ニ發セント欲スルトヲ知テ、自首スル者ヲ謂フ、真ニ罪ヲ悔ル心ナク、事發シ、罪ヲ畏ルルニ因リ、首出ス、故ニ本罪ニ、二

等ヲ減ス、聞捕而首ト稱スルハ、官司人ヲ差シ、
已ニ捕獲セント欲スルヲ偵知シテ、自首ス
ル者ヲ謂フ事ジ機キ緊キン急キウ、已ムヲ得サザルニ出テ、
悔懼ノ心尤モ薄シ、故ニ本罪ニ、一等ヲ減ス、越
獄而首ト稱スルハ、已ニ囚禁セラレテ、越獄逃
走シ、自首スル者ヲ謂フ、止々越獄ノ加等ス可
キ罪ヲ免シテ、本罪ハ減ズルヲ聽サズ

擬律必携卷二終





明治八年三月廿三日
免許同年五月刻成



Faint, illegible text within a light blue rectangular border on the right page.

此昏編纂功竣ルノ後紙數殆ント八卷ニ垂ント
ス故ニ全部卒業ノ時ヲ期セント欲セバ時日ノ
遷延ヲ恐ル因テ今此編ヲ梓行シ五月中將ニ全
編ノ功ヲ終ラントス

